

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(スポーツ理学療法士科 4年制)

2026年度入学生カリキュラム(1年次)

科目区分	授業科目	授業単位数	うち 実務教員による授業	授業単位数	うち シラバス添付	授業単位数	備考
講義	ITリテラシー	2					
講義	理学療法基礎科学	2	○	2			
講義	いのちの倫理	1	○	1			
講義	心理学	2					
講義	文章リテラシー	1					
講義	保健体育	2	○	2			
講義	コミュニケーション論	1					
講義	解剖学 I	6					
講義	運動機能論 I	2	○	2	☆	2	
講義	運動機能論 II	2	○	2			
講義	生理学	4					
講義	運動学	8	○	8			
講義	人間発達学	2					
講義	救急医学(BLS)	1	○	1			
講義	リハビリテーション概論	1	○	1			
講義	理学療法概論	2	○	2			
講義	理学療法基礎セミナー	2	○	2			
講義	理学療法評価概論	2					
総授業時数		43		23		2	
卒業に必要な授業時数		158					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース スポーツ理学療法士科	学年	1	開講 区分	前期	担当教員 田中 信一			
授業科目名 運動機能論 I	必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

人間の運動機能の基礎となる骨格と関節の基礎を理解していく。
理学療法士を目指すものにとって、骨格、関節の構造を知ることは重要であり、三次元的な視点で個々の骨、関節の構造や位置を十分に理解しておく必要があることを念頭に受講してほしい。理学療法士として医療・介護施設に勤務している教員が実務経験に基づいて理学療法士養成に向けた授業を展開する。

[到達目標]

- ・骨名と各部位の名称、関節の名称を述べるができる。
- ・骨、関節の構造、形態を分類できる。

[使用教材、参考文献等]

解剖学 第6版 (医学書院)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章:解剖学総論 人体の大要と解剖学的用語	解剖学的位置、方向と位置を示す用語、身体の区分を述べるができる。
2	第2章:骨格 人体の骨名称 骨格 骨の構造	人体の骨の名称を述べるができる。 骨の構造を述べるができる。
3	第2章:骨格 骨学各論 胸郭、上肢帯、上腕骨(近位部)	各骨を区別できる。胸郭、上肢帯、上腕骨(近位部)の各部位の名称を述べるができる。
4	第3章:関節と靭帯 関節靭帯各論 上肢帯の連結、肩関節	上肢帯の連結、肩関節の名称を述べるができる。また、関節の形態を分類できる。
5	第2章:骨格 骨学各論 上腕骨(遠位部)、橈骨、尺骨、手根骨、手指骨	上腕骨(遠位部)、橈骨、尺骨、手根骨、手指骨の各部位の名称を述べるができる。
6	第3章:関節と靭帯 関節靭帯各論 肘関節、手根の関節	肘関節、手根の関節の名称を述べるができる。また、関節の形態を分類できる。
7	第3章:関節と靭帯 関節靭帯各論 中手の関節、指の関節	中手の関節、指の関節の名称を述べるができる。また、関節の形態を分類できる。
8	確認テスト 前半の振り返り	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	第2章:骨格 骨学各論 下肢帯、骨盤	下肢帯の各部位の名称を述べるができる。骨盤の構造と性差を述べるができる。
10	第2章:骨格 骨学各論 大腿骨 第3章:関節と靭帯 関節靭帯各論 股関節	各骨を区別できる。大腿骨の特徴を述べるができる。股関節の特徴を説明できる。
11	第2章:骨格 骨学各論 脛骨、腓骨 第3章:関節と靭帯 関節靭帯各論 膝関節、足関節	各骨を区別できる。脛骨、腓骨の特徴を述べるができる。膝、足関節の特徴を説明できる。
12	第2章:骨格 骨学各論 足根骨、中足骨、趾骨 第3章:関節と靭帯 関節靭帯各論 足部の関節	各骨を区別できる。足根骨、中足骨、趾骨の各部位の名称を述べることができる。
13	第2章:骨格 骨学各論 脊柱の骨 第3章:関節と靭帯 脊柱の連結	脊柱の骨の各部位の名称を述べるができる。また、関節の形態を分類できる。
14	第2章:骨格 骨学各論 頭蓋 第3章:関節と靭帯 頭蓋	頭蓋の骨の各部位の名称を述べるができる。また、関節の形態を分類できる。
15	期末テスト 後半の振り返り	運動機能論で学習した内容のまとめを通じて、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[成績評価について]

小テスト、課題(20%)
確認テスト(40%)
期末テスト(40%)

[特記事項・授業時間外における学習]

小テスト(または課題)は、毎回の授業で実施し、成績評価に含まれる。

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(理学療法士科Ⅱ部 4年制)

2025年度入学生カリキュラム(2年次)

科目区分	授業科目	授業単位数	うち実務教員による授業	授業単位数	うちシラバス添付	授業単位数	備考
講義	医学英語	1					
講義	障がい者スポーツ論	2	○	2	☆	2	
講義	解剖学Ⅱ	2					
講義	病理学	2					
講義	神経内科学	4	○	4			
講義	臨床心理学	2	○	2			
講義	内科学	4					
講義	整形外科学	4	○	4			
講義	病態運動学	2	○	2			
講義	理学療法セミナー	2	○	2			
講義	理学療法検査・測定法	4					
講義	運動療法学Ⅰ	4	○	4			
講義	疾患別理学療法学Ⅰ	2	○	2			
実技	疾患別理学療法学実習Ⅰ	1	○	1			
講義	物理療法学	2					
実技	物理療法学実習	1					
講義	義肢装具学	2					
総授業時数		41		23		2	
卒業に必要な授業時数		158					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	2	開講 区分	前期	担当教員 佐藤 俊生			
授業科目名 障がい者スポーツ論	必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

スポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援するための知識を習得する。また中級パラスポーツ指導員資格を有する理学療法士が授業を行うことで、理学療法士として障がい者のスポーツ活動が支援できるよう、知識、技術を習得する。

[到達目標]

パラスポーツに関する制度や障がい者の特徴、安全管理などについて学習するとともに、実際のスポーツに参加し、障がい者の方と交流を図る。そして未経験や初心者の方に対してスポーツ活動への参加を促すことができる。

[使用教材、参考文献等]

教 材) 授業内で配布

参考文献) 障がいのある人のスポーツ指導教本(ぎょうせい、R2)、障がい者スポーツ指導教本(ぎょうせい、H28)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	「しょうがい」とは何か パラスポーツに関する諸施策	各障がいに関する法律や障がい者福祉施策とパラスポーツに関する施策を説明できる。
2	コミュニケーションスキルの基礎	パラスポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキル・ソーシャルスキルを説明できる。
3	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	スポーツにおけるインテグリティを理解し、指導者に求められる資質を説明できる。
4	パラスポーツの意義と理念 パラスポーツの意義や理念について理解する	パラスポーツの意義を説明できる。
5	安全管理、応急処置について学習する	安全管理、応急処置の手順を説明できる。
6	障がい者の基礎知識1(身体) 頸椎損傷、脊髄障害	脊髄損傷や脳性障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
7	障がい者の基礎知識1(身体) 脳性麻痺、脳血管障害	脳性障がい、脳血管障害の特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
8	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 (ボッチャ)	実際にボッチャを体験する。
9	障がい者の基礎知識1 視覚障害	視覚障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
10	障がい者の基礎知識1 聴覚障害	聴覚障がい、の特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
11	障がい者の基礎知識(知的・精神) 知的障がいと精神障がいについて理解する	知的障がいや精神障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
12	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 (シットイングバレーボール)	実際にシットイングバレーボールを体験し、実施上の注意点や競技特性を説明できる。
13	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 (フライングディスク)	実際にフライングディスクを使用したスポーツを体験し、実施上の注意点や競技特性を説明できる。
14	道具について知ろう 義足、車椅子、杖、補装具	パラスポーツでよく用いられる用具を知り、スポーツ実施上の工夫を述べられる。
15	パラスポーツの実際 当事者との交流	パラスポーツを実際に行っている方から話を聞き、感想を述べられる。(課題あり)

[成績評価について]

中間試験(レポート課題) 40%
期末試験(レポート課題) 40%
当事者との交流の課題 20%

[特記事項・授業時間外における学習]

授業で実施した内容に関して自分の意見を述べられるように復習すること。

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(理学療法士科Ⅱ部 4年制)

2024年度入学生カリキュラム(3年次)

科目区分	授業科目	授業単位数	うち実務教員による授業	授業単位数	うちシラバス添付	授業単位数	備考
講義	精神医学	2	○	2			
講義	小児科学	2					
講義	老年学	2					
講義	画像診断学	2	○	2			
講義	リハビリテーション医学	2	○	2			
講義	保健医療福祉論	1	○	1			
講義	スポーツリハビリテーション論	2	○	2			
講義	理学療法総合セミナー	2	○	2			
実技	理学療法検査・測定法実習	2	○	2			
講義	運動療法学Ⅱ	2	○	2			
実技	運動療法学実習	2					
講義	疾患別理学療法学Ⅱ	2	○	2			
実技	疾患別理学療法学実習Ⅱ	2					
実技	義肢装具学実習	1					
講義	日常生活動作学	2	○	2	☆	2	
実技	日常生活活動学実習	1	○	1			
講義	地域理学療法学	2	○	1			
講義	生活環境論	2	○	2			
実習	臨床評価実習	5	○	5			
総授業時数		38		28		2	
卒業に必要な授業時数		158					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	日常生活動作学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
木梨 将宏 先生										

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

- ・回復期リハビリにて、在宅復帰に向けたADLの向上に取り組む理学療法士として日々従事している。
- ・今まで学んできた運動学や日常生活動作学の知識を発展させ、実際の日常生活動作の問題を評価・治療につなげられることを目標とする。
- ・実技と他者への説明に時間を多き、学んだ知識の理解と整理に努めてもらう取り組みを重視する。

[到達目標]

- ・動作観察および動作分析の説明および解釈が行えることを目標とする。
- ・疾患別における日常生活動作の問題について、理解・説明できることを目標とする。
- ・日常生活動作における理学療法評価の習得を目標とする。

[使用教材、参考文献等]

日常生活動作学の教科書
Teamsで提示する配布資料

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	ADLの概念	ADLの概念、ICIDHとICF、QOLの用語の説明ができる。
2	ADLの運動学的分析 ①	静力学、運動力学の用語が説明ができる。
3	ADLの運動学的分析 ②	運動力学的分析について説明ができる。
4	基本動作の運動学的分析(寝返り)	寝返りの運動学的分析が説明できる。
5	基本動作の運動学的分析(起き上がり)	起き上がりの運動学的分析が説明できる。
6	基本動作の運動学的分析(立ち上がり)	立ち上がりの運動学的分析が説明できる。
7	中間試験	第1～6回の内容を、Teamsを用いた試験により効果判定を行い、理解度を深める。
8	ADLを支援する機器(歩行補助具)	各歩行補助具の特徴について説明ができる。
9	ADLを支援する機器(歩行補助具)②	各歩行補助具を用いた介助ができる。
10	筋骨格系障害に対するADL能力低下	筋骨格系障害に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。
11	関節リウマチに対するADL能力低下	関節リウマチに対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。
12	股関節術後に対するADL能力低下	股関節術後に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。
13	膝関節術後に対するADL能力低下	膝関節術後に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。
14	股関節・膝関節の術後の歩行能力低下	股関節・膝関節術後の歩行能力低下の要因とその対策について説明ができる。
15	期末試験	第8～14回の内容を、Teamsを用いた試験により効果判定を行い、理解度を深める。

[成績評価について]

- ・中間試験(計40点)、期末試験(計40点)、毎回の小テスト(計20点)の3合計100点で評価する。
- ・評価方式はTeamsを用いた試験とする。

[特記事項・授業時間外における学習]

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(理学療法士科Ⅱ部 4年制)

2023年度入学生カリキュラム(4年次)

科目区分	授業科目	授業単位数	うち実務教員による授業	授業単位数	うちシラバス添付	授業単位数	備考
講義	基礎医学総合演習	6	○	6			
講義	臨床医学総合演習	4	○	4			
講義	理学療法管理学	2	○	2	☆	2	
講義	理学療法評価学総合演習	4	○	4			
講義	理学療法治療学総合演習	4	○	4			
実習	臨床総合実習	16	○	16			
実習	地域リハビリテーション実習	1	○	1			
総授業時数		37		16		2	
卒業に必要な授業時数		158					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	4	開講 区分	後期	担当教員 佐藤 俊生、他			
授業科目名 理学療法管理学	必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

理学療法をとりまく法律・制度、職場管理と職業倫理や組織運営とマネジメントを包括的に学ぶ。専門職として理学療法教育を理解する。

[到達目標]

理学療法士に求められるマネジメント力について制度を理解したうえで説明できる。

[使用教材、参考文献等]

配布資料を中心に進める

参考文献)理学療法管理学(医歯薬出版)、リハビリテーション管理学(羊土社)、理学療法管理学(中山書店)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	【オリエンテーション】 卒前教育におけるマネジメント	卒前教育の変遷や内容、臨床実習教育について説明できる。
2	リスク管理①総論、感染対策	リスク管理の総論、感染対策について説明できる。
3	リスク管理②急変対応(GPR,AED、異物除去)	急変時の対応方法について説明できる。
4	リスク管理③転倒 理学療法管理学総論	転倒リスクへの対応について説明できる。 理学療法管理学とは何か概説できる。
5	医療の品質管理(良質な医療の提供)	医療の品質管理について説明できる。
6	研究における管理(名簿管理、倫理的配慮、COI、 統計総論)	研究におけるマネジメントについて説明できる。
7	職業倫理、ハラスメント	職業倫理、ハラスメントについて説明できる。
8	卒後教育におけるマネジメント	卒後教育について理解し、各種の手法や制度について説明できる。
9	職場管理・労務管理	職場管理・労務管理について説明できる。
10	情報管理、物品管理	情報管理・物品管理について説明できる。
11	起業におけるマネジメント①	理学療法士の企業について、必要な事項について説明できる。
12	起業におけるマネジメント②	起業後に必要なマネジメントについて説明できる。
13	診療・介護報酬と収益構造	診療報酬・介護報酬と収益構造について説明できる。
14	理学療法士の未来像 (政治活動含む)	社会情勢・政策課題を含め今後の理学療法士像を想像することができる。
15	まとめ	これまでの内容をまとめ、要点を概説できる。

[成績評価について]

評価方法
小テスト 30%
期末課題 70%

[特記事項・授業時間外における学習]

授業後には実施内容について復習をすること。